

## 里浜の定義

### 里山と里浜の比較

項目	里山	里浜
定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奥山に対して人家の近くにある山をいうが厳格な定義はない。古くから四壁林、地続山といわれたのは、集落周辺の山、田や畑に接続する山を意味し、里山は村落での生活の燃料採取や田畑の給源であった。したがって、村民共同で入林する入会山であった。</li> <li>・たき木や肥料などの採取地となってきた平地や低山の林のことで、暮らしと関わりが深い身近な自然のことをさす。また人手による適度なく乱を通じて、豊かな生物の生息、生育空間が保たれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(人為的な環境負荷が大きいため)人為的な管理により人為的な活動と自然環境の持続的調和が保たれた(あるいは保つべき)海辺</li> <li>・人々の暮らしとの関わりが深い身近な海辺で、利用と自然環境とが共存し、人が管理することによって維持されている海辺</li> </ul>
範囲	人家の近くにある山及びそれに隣接する田畑、集落	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々が海辺、浜辺と意識する範囲(海側にあつては干潮面 - 数m程度まで。陸側にあつては背後の道路・人家等の前面まで)</li> </ul>
生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たき木や肥料の採取地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサリ等魚介類採取</li> <li>・海水浴・潮干狩りなどレクリエーションの場</li> </ul>
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に木を切る、草刈りをすることによって雑木林の維持が可能となり、またこれによって多様な生物の生息環境が保全されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海側・陸側からあるいは流入河川等による人為的影響を受けやすく、人の手による管理を行わなければ良好な環境を維持できない</li> </ul>
イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な雑木林や田んぼ(日本の原風景・ふるさと風景の原型)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落の前の浜辺</li> <li>・(藻場、干潟、砂原)</li> <li>・白砂青松</li> </ul>

注1)「里山」の定義等は「平凡社大百科事典」、「現代用語の基礎知識 2002」から引用

注2)「里海」という用語は、使われ始めているが、「里海」の明確な定義付けは行われていないため次のように考える。

里海：都市に接し、人の暮らしと深くかかわって、人が適切に手を加えることで良好な環境が維持されている、あるいは維持されるべき海域。又は、単に「ふるさとの海」。

「里浜」は、「里海」の中で、陸と海が接する「渚」、「浜辺」という、より限定的な範囲を指す。よって、「里浜」は「里海」に包含される。